

今年の教区の目標

われら皆 和解の器
平和の担い手

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2023年 7月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第776号 (7月号)

6・23 沖縄慰霊の日

第37回 カトリック那覇教区 平和巡礼



カトリック那覇教区
ウェイン・F・バートン司教

コロナ禍でしばらく中止されてきた平和巡礼が今年から再開された。
毎年6月23日の沖縄戦終結の日に行われてきたが、今年は直前の6月19日から22日まで、那覇、鹿児島、大分教区の司祭たちの合同黙想会が開かれ、黙想会に与った司祭たちも大勢が巡礼にも参加された。
今年の巡礼コースはかつてと同じコースを辿りつつ、教区平和委員会が準備した「沖縄戦から観想する十字架の道行き」を祈りながら巡礼の歩みが進められた。巡礼に先立って小禄教会で朝ミサが捧げられ、魂魄の塔までの約15kmのコースを、戦時下に逃げまどった人々に思いを馳せながら、巡礼の道を辿った。



翁長コンビニ前での祈りの集い



共に祈りを捧げるウェイン司教と押川司教



魂魄の塔での祈りの集い

~ June 23, 2023 Peace Message ~

Day of Remembrance for the Victims of the War in Okinawa
Caught in the Struggle for Power among Great Countries, we cry:
“We are not Cannon Fodder!”
“We are Bridges of Peace Linking all the Peoples of Asia!”

Caught in this Struggle for Power we cry:

No more war.
 No more sadness.
 No more oppression.
 No more discrimination.
 No more bases.
 No more shells or missiles.

We will not allow anyone to use us as Cannon Fodder!

Caught in this Struggle for Power we cry:

We want to live in peace
 We want to have friendly relations with all nations.
 We want to live in peace with our children and grandchildren.
 We want to live in harmony with the sky, earth, and sea.
 We want to live the Okinawan saying, “If we meet once, we are already brothers!”

We want to live the spirit of the Okinawan teaching, “Life itself is a treasure.” and to remember the words of our elders who said that to “love the other with sincerity is to feel their pain deep within yourself.”

We are Bridges of Peace Linking all the Peoples of Asia!



声明文「沖縄慰霊の日にあたり」

日本カトリック正義と平和協議会は、戦争の引き金となるあらゆる軍拡競争、核兵器の開発と保有に反対し、とりわけ、沖縄戦での犠牲者の霊を慰め世界の恒久平和を願う日とされる本日六月二十三日、日本政府に向け、南西諸島を危険に陥れる長射程ミサイル配備を、直ちに中止することを求めます。

今からちょうど六十年前の一九六三年四月十一日、教皇ヨハネ二十三世は回勅『パーチエム・イン・テリス―地上の平和』を発表し、以下のように述べました。

「すべての人が理解しなければならぬのは、軍備縮小の過程が、人間の心にも及ぶ徹底した完全なものでなければ、軍勢力増強の停止、軍備の削減、さらにその全廃は実現しません。人々の心の中から戦争勃発の予感に対する恐れと不安を払拭するために、すべての人は心から協力し、努力しなければなりません。軍備の均衡が平和の条件であるという理解を、真の平和は相互の信頼の上にしか構築できないという原則に置き換える必要があります」(61)

ところが日本政府は、二〇二二年十二月十六日、「反撃（敵基地攻撃）能力」の保有を明記する、いわゆる「安全保障」三文書を閣議決定し、二〇二三年三月二十八日には、六兆七七八〇億円という過去最高の軍事予算を成立させました。この背景には、台湾をめぐる米中間の深刻な対立が指摘されています。しかし同時に、日米同盟下のこうした軍拡政策自体が、中国を強く刺激していることも間違いありません。万が一、米中の武力衝突が起きれば、二〇一五年に成立した安全保障

関連法によって、日本はその戦争に巻き込まれていくことになるでしょう。その時、最初に標的とされるのは、現在長射程ミサイルの配備が進む南西諸島の島々に他なりません。そうなれば、小さな島はたちまち焦土と化し、島に住む人々が、直ちに島外に避難することは、不可能です。

戦争は、緊張を煽ることで回避されうるものでしょうか。むしろ戦争は、緊張が高まり、ある一線を越えた時、始まるのではないのでしょうか。その時日本政府は、かつての沖縄戦のように、南西諸島の人々を犠牲にして他の人が助ければ、それでいいと考えているのでしょうか。しかしその時、日本が「反撃（敵基地攻撃）能力」を行使し、敵国をミサイルで攻撃をすれば、核による世界戦争への引き金になりかねないことは、現在継続するロシア・ウクライナ戦争の状況を見れば明らかです。

今、日本が本当にしなければならないことは、「抑止」と言いながら軍勢力を高めることではありません。私たちは、日本政府が、国家間の緊張が戦争に発展しうる現代世界の状況を見据え、日本国憲法前文、および第9条に従い、決して戦争をしないという決意のもと、そのための外交努力、軍備縮小、核兵器廃絶の努力を重ねるよう、強く求めます。

ProtinoSC-JP23-02

二〇二三年六月二十三日

日本カトリック正義と平和協議会

会長

担当司教

ウエイン・バーント
エドガル・ガクタン

協議会一同

沖縄戦から観想する十字架の道行き

小祿教会

- 第1留：イエスのエルサレム入場（ルカ 19・28～44）
第2留：イエス、律法学者たちと対決する（マタイ 23・1～36）
第3留：イエスを殺す計略、ユダの裏切り（ルカ 22・1～6）

翁長・コンビニ前

- 第4留：最後の晩餐（マルコ 14・22～26）
第5留：イエス捕えられる（マタイ 26・47～56）
第6留：ベトロ、3度イエスを知らないと言う（ヨハネ 18・15～27）

グループホーム千寿前

- 第7留：イエスの裁判（マタイ 25・57～68）
第8留：ピラトの尋問とバラバ（ヨハネ 18・28～38）
第9留：むち打ちの刑と茨の冠、「十字架につけろ」と叫ぶ群衆（ヨハネ 19・1～7）

ひめゆり会館駐車場

- 第10留：ピラト死刑判決を言い渡す（ヨハネ 19・8～16）
第11留：イエス、十字架につけられる（ヨハネ 19・17～24）
第12留：十字架の下で立つ母マリア、女性たち（ヨハネ 19・25～27）

魂魄の塔

- 第13留：イエスの死（ヨハネ 19・28～30）
第14留：イエス葬られる（ヨハネ 19・38～42）

第15留：空になった墓（ヨハネ 20・11～18）

女性たちはイエスの遺体を引き取ろうと墓に行った。しかし、墓は空で、イエスはおられなかった。悲嘆にくれていたマグダラのマリアは、「マリア」と声をかけられ振り向いた。マリアは声をかけたその人がイエスだと気づいた。マリアは弟子たちのところへ行き、「私は主を見ました」と知らせた。

▼戦後、この一帯には無数の屍が累々と横たわっていました。沖縄の戦後は戦没者の遺骨収集から始まりました。集められた遺骨を埋葬したのが魂魄の塔、そして沖縄の人々が建てた慰霊碑です。摩文仁に国立戦没者墓苑が作られた時、ここの遺骨が移管され、今、遺骨は残っていません。しかし沖縄の人々にとって魂魄の塔は心の拠り所です。マグダラのマリアは、空になった墓でイエスと出会い、復活という奇跡を信じました。私たちが信じるのは神のみ業、奇跡です。主よ、私たちの叫び、平和への思いを顧み、私たちを悪から救い、すべての罪から解放し、すべての困難に打ち勝たせてください。私たちに希望と奇跡を信じる勇気をお与えください。

※紙面の都合上、「十字架の道行き」全文を掲載することはできませんでしたが、教区平和委員会にお問い合わせいただければ、冊子をコピーして頂くことができます。ご活用いただければと思います。



信者の家庭は 小さな教会

ピーター・チャネル・チェ神父

コザ教会 主任司祭

して豊かな実りを結ぶことが出来たことを、教会の歴史を通して知る事が出来ます。

十二人の弟子たちと同じように、今を生きる私たちも神様から呼ばれて、それぞれの持ち場に派遣されています。洗礼によって救われた私たち一人一人が、先ず祈りの中からイエス様と共に生きるという体験をすることにより、それぞれ与えられた賜物を使って、福音の喜びを述べ伝え、宣教のために生きるようにと力づけてくださいます。



イエス様は「二人または三人が私の名によつて集まるところには、私もその中にいる」(マタイ十八・20)と言われました。ここには教会の始まりの姿がともよく示されています。小人数であつても信者たちの集まるところには、すでにイエス様の神秘体である教会が始まっていると言っているのです。

二千年前に、イエス様は十二人の弟子たちを、ご自分と共にいて、福音を宣べ伝えるために任命されました(マルコ三・14)。十二人の弟子たちはまず、イエス様といっしょに生活し、祈りのうちに家族的共同体の体験をしながら、イエス様からいろいろの言葉、行いを導いていただきました。弟子たちは皆成長して、福音宣教に派遣されました。

その弟子たちの働きで、教会は次第に増えていきました。私たちは教会が成長

しかし、福音宣教するということは、とても難しいことです。毎日の生活の中でどのようなことができるでしょうか。私たち信者にとって、先ず、それぞれの家庭が小さな教会だと言えます。

家庭の中で祈ること、家族と共に祈ることができれば、これ以上の喜びはありません。祈ることにより家族が温かい気持ちになり、和やかな表情になるだけでも周囲の人々には宣教になるのです。ベトナムでは長い戦争の間、聖堂でミサや祈りなどのために集まることができ

ず、司教、司祭方は極秘のうちに信者の家でミサや秘跡などを行いました。

イエス様の時代と同じように、信者たちは司祭たちと共に生活し、祈りと共同体の体験をしながらいろいろな教え、言葉、行いを学びました。そうするうちに、ベトナムの信者たちは皆成長していきました。どんな迫害があつても乗り越えて、実りを結ぶことが出来ました。そんな素晴らしいことが出来た。そんな素晴らしい体験が、いつまでもベトナム教会の中心に残されています。

ベトナムの信者は家庭祭壇をとて大切にしています。家のセンターに大きな祭壇を作る習慣があります。この家庭祭壇は聖堂の祭壇のようなもので、真ん中にキリストの十字架があり、右、左に聖マリア像と聖ヨセフ像があります。もちろん、お花、ろうそく、線香なども置いています。そして、毎日寝る前に、家庭祭壇に家族が集まつてお祈りを捧げる習慣になりました。この祈りの習慣は、単なる個人的なお祈り以上のものです。なぜなら、家庭という小さな教会でのお祈りだからです。

それぞれの家庭で、神様のことにしても、例えば、毎日のミサ、聖書の言葉、教会の教え、祈り、信仰などについて、お話を対話、説明や勉強、反省や霊的導きなどを行ってきました。

長い戦争の後、ベトナムでは、お父さん、お母さんは司祭に代わって司式者として祈りや言葉の説明などを行っています。それだけではなく、教会の教えや

霊的な導きなどにも頑張っています。ですから、ベトナムの家族の中でお父さん、お母さんはカテキスタと呼ばれています。また、それぞれの地区で信者たちが集まつて、祈りを捧げ、教会のお知らせや活動を細かくいきわたらせ、話し合いをして、実際に実行できるようにしました。カトリック聖歌の練習、聖書の分かち合いやレクレーションの分かち合いなどをする地域の集まりが、小さな教会共同体の役割を果たしてきました。

かつて、日本でも迫害の時代がありました。特に長崎での信者さんたちはその間、自分たちで長い間、信仰を大切に守ってきました。司祭がいらない間も祈り、日々厳しい生活で共同体を大切に活動し続けたということです。

このように、ベトナムや日本で、かつては共同体を大切に、活動していました。現代社会のような忙しい時代ではとても難しいことではありますが、その中でも、家庭での集い、家族と共に祈る、そして共同体と共に信仰を大切にし、カトリック教会を生活の中心にしていくことが必要ではないでしょうか。



ベトナムの家庭祭壇

妻が天国に旅立ち、もうすぐ一年になります。時の流れは早いもので、いろんな事を思い出しては大切なことを忘れていつてしまっている様な気がします。去年の五月に体調を崩し救急で病院に駆け込み、検査の結果、子宮体がんと診断されました。しかもリンパ節や他臓器への転移も確認されステージIVと言われました。頭の中が真っ白になった。どうして神様……数日間、なんで？どうして？と悲観的なことばかり考

六月初めに大きな病院に転院し精密検査を行うも診断結果が変わる事はなく手術も困難、抗がん剤治療もリスクが高いとのことで医師も治療方針に苦慮されたと思います。わたしたちは悩みに悩み、考えて考え抜いて、本人と息子と親兄弟とも相談した結果、本人の意思を最大限に尊重し治療しない選択を決めました。そしてオリブ山病院の緩和ケア病棟に移ることを決めた。

オリブ山病院の緩和ケア病棟に移ってからは短時間ではありましたが面会が許可され、家族の団欒、濃密な時間を過ごすことができたことに感謝いたします。妻もホスピスにいられて良かった。医師も看護師も優しく温かく接してくれ、なによりも牧師様が定期的に病室に足を運び聖書の言葉を話され、お祈りをしてくださるのが最高の安らぎだと話してくれました。ホスピスがカトリック那覇教区にもあったらいいのになとも思っていました。

たて軸よこ軸

祈りと共に

コザ教会 與那嶺 浩民

えていましたが、泣いてばかりいても仕方がないので前向きに生きようと考えを改めるように努めました。

コロナ禍で入院患者との面会制限が厳しく、妻の顔を見ることができない日々が続いたのがとても辛かったです。その中でも毎日の出来事をメールを使って家族で共有して過しました。今日、ごはんちゃんと食べたよとか、食欲がなかったとか。息子は大学であったことやバイトの事など、なんでもない普通の会話を重ねていきました。

二十九日、聖家族の祝日にコザ教会で親子三人、洗礼の秘跡を授かりました。息子が幼稚園の年長でした。洗礼から数年が過ぎたところ妻は両親の介護などで教会へ足が遠のいてしまいましたが、毎日毎日あきもせず聖書を読んでいた。常日頃から聖書は読んだほうがいいよ、お祈りする時間は作っている？と、わたしと息子に言っていました。そんな息子は今年大学二年生、すっかり教会から離れつつありますが、妻の分もお祈りを続けていきたいと思っています。

ホスピスに来てひと月が過ぎた七月二十七日に妻は五〇年の生涯を終えました。やり残したこともたくさんあったでしょう。でも、充実した濃密な人生だったと思います。そう思いたいです……。わたしたち家族は妻が入院している間もコザ教会の主任司祭および信徒のみなさまの祈りに支えられてきました。それは今も変わりありません。

妻が亡くなったあと、ある神父様の言葉が強く印象に残っている。「あなたの奥さんは天国に行つてイエス様の顔をほつくりと見た」。

すぐく慰められ、涙が溢れ出た事は生涯忘れないでしょう。

祈りはだれかに届くと信じています。困難に直面している人、病人のため、死者のため、家族・兄弟姉妹のため、平和のため、これから祈り続けていきます。



WYD Lisbon 2023 (「世界青年の日」リスボン大会)



今年、8月開催のWYD(ワールドユースデイ)リスボン大会は、ポルトガルの首都リスボンを開催地とする初めての大会となります。大会テーマとして、教皇フランシスコが選ばれたこの福音は、WYDパナマ大会テーマであった「よい知らせを受け入れる(聖霊がマリアに御子の誕生を予告し、マリアがそれを受け入れる)」エピソードの後に続き、エリザベトを訪ねるマリアの訪問記へと展開していきます。ナザレのマリアは、神にただ「はい」という受け入れるよう、わたしたちにキリスト者の通る旅路の模範的なあり方を示しています。マリアはすでにWYD大会の主人公であり、リスボン大会でも同様です。

特に若い人々の巡礼意欲への挑戦として、教皇フランシスコは使徒的勧告で「イエスはどこにわたしたちを派遣するのでしょうか。そこには境界も限界もありません。すべての人のもとにわたしたちを派遣します」(『キリストは生きている』177)と伝えています。

那覇教区からも4人の青年たちが参加します。お祈りと派遣費の献金をお願いします。

2023年6月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2023年6月6日(火) 10:00~12:00 会議の前に、ブイ神父の司式でベネディクションが行われた。

- ・ 前回(5月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・ 司教・司祭の休暇と研修などによる不在が連絡された。
リカルド神父、4月25日~7月14日 ナビーン神父、7月17日~8月18日
マイケル神父、7月3日~8月3日 古川神父、7月10日~7月22日
ロドニー神父、7月13日~8月25日 ウェイン司教、7月18日~7月21日 東京にて臨時司教総会
- ・ 自動車税と保険料納付は教区で一括して行っているが、小教区からの未納が増えているので、会計責任者、役員さんたちに説明して、確実に支払いするよう教区事務局から依頼があった。
- ・ 「マリアの汚れなき御心修道会」のベトナム本部から顧問のシスター達が来沖され、沖縄における修道院の状況を視察。沖縄で暮らすシスター達の意見も踏まえ、浦添にある支部フィアト修道院を泡瀬に移し、名護を沖縄での第二の正式な修道院として活用していきたいこと、来年1人のシスターを新たに派遣したい等の要望が教区に寄せられたことが、ウェイン司教から述べられ、概ね合意したことが報告された。また、「オブレート・ノートルダム修道女会」についても、フィリピン本部の顧問の来沖を待って話し合いが行われることが報告された。
- ・ カリタス那覇の活動について、担当のマーシーさんから報告が行われた。ボランティア募集のポスター掲示を各小教区に要請し、今後は、様々なプログラムに多くのボランティア参加を呼び掛けるための準備として、7/9に事前説明会を文化センターで予定しているので、先ずはその説明会への参加呼びかけや参加協力をお願いしたい旨、要請が行われた。
- ・ 安里教会のフランシス神父から、教区センターとしての安里教会の活用について協力依頼が行われた。教区行事のための利用にさいしては、光熱費等を安里教会が負担しているが、活用が増えるにつれ、小教区の負担も増えてきているので、寄付や利用料金の設定など対応を検討したい意向であることが提示された。
- ・ 安里小教区の保育園に隣接するガジュマルの大木について協議が行われた。根っこが伸びて保育園の下水管に入り込み、水が流れなくなって補修工事をする等の対応を余儀なくされてきており、根本的な解決のため、伐採か根伐り等の対策が急務であることが報告され、意見交換が行われた。結論にはもう少し時間をかけ、引き続き検討していくことが確認された。
- ・ 読谷教会で6/18日の行われる予定のフィリピン人信徒たちの集いについて、サニー神父から報告があり、参加呼びかけなされた。3教区合同黙想会の指導に見えらるる仙台教区のエドガー司教も参加され、午前11時からのミサを主式される予定であることも合わせて報告された。

2. 審議事項

- ・ 3教区合同黙想会について、担当のブイ神父と津波古事務局長から、前回配られた日程表の修正箇所の説明が行われた。変更は6/20と6/21の夕食提供日の交代と朝の開始時間のみで、それ以外は日程通りに行われる。また、黙想後、沖縄慰霊の日の平和巡礼に参加される司祭たちのためには、大型バスの用意があることや、巡礼後に帰られる司祭たちのために、小祿のカプチン会修道院で、シャワーや着替えができるよう準備すること等が確認された。
- ・ 慰霊の日の平和巡礼について報告が行われた。ウェイン司教から、「南の光明」に載せた平和メッセージの報告と解説が行われ、マキシム神父から準備状況の説明が行われた。小祿での早朝ミサに始まって、魂魄の塔までの道のりは、例年通りの場所で祈りと休憩の時間を取り、お祈りは十字架の道行きの形式に沿ったものにしていくこと等の準備状況の説明が行われた。
- ・ カテキスタ要請講座について、ピーター・チェ神父から講座の内容が説明され、了承された。7月15日の開講を目指して準備を進め、2年間の養成期間を掛けてカテキスタを育てていくことが確認された。
- ・ サマーキャンプに関して、担当のブイ神父からポスターと募集要項が配られ、説明が行われた。
諸般の事情から、今年もデイ・キャンプ、日帰りとなる。小学3~6年生が7/29(土)、中高生が8/5(土)に行われる。テーマは「共に歩む」。申し込みは7/9(日)までで、ポスターと申し込み用紙を各小教区に配るので、参加者各自が記入の上、主任司祭が署名して、担当のブイ神父に届けるよう要請があった。また、各小教区で担当者を決めていただいて、その連絡先をブイ神父まで通知するよう要請があった。その他、キャンプのための特別献金を各小教区で募って欲しいとの要請も行われた。
- ・ 7月の司教予定についてマーシーさんから報告が行われた。7/2読谷教会ミサ。7/9与那原修道会講話。7/29小学生サマーキャンプ。7/30名護教会ミサ。
- ・ その他、休暇の取り方についてウェイン司教から協力依頼があった。学校を担当する司祭たちは学校の休みに合わせて休暇を取得することが必要となるので、夏休み期間は彼らを優先し、また、宮古や石垣の司祭に対しても配慮したい。いずれにせよ、休暇を申請する際には、一時期に集中することを避け、他の神父たちと調整して申請するよう依頼があった。
- ・ ワールド・ユースデイ、ポルトガル大会に那覇教区から4人の青年が派遣されることが決まったので、派遣のための特別献金を各小教区でも行うよう依頼があった。
次回7月の拡大司祭・助祭会議は7月4日(火) 午前10時から安里教区センターで行われる。

2023年6月13日 承認: ウェイン・フランシス・パーント司教 記録: 新田 選

教区NEWS教会

司教様公式訪問

名護教会

去る五月十四日(日)は、司教様の公式訪問の日でした。マリア祭は、それぞれが持つてきた花をお捧げする間「あめのきさき」を歌い、そしてミサが始まりました。ミサの中では男の子一人が堅信を受け、信徒みなで喜びを分かち合いました。お母さん方は司教様から母の日の祝福を受け、ダイヤモンド婚の宮城夫妻には、教区からの記念品が司教様から贈呈されました。

ミサ後は、全員で記念写真を撮り、そのあと久しぶりの祝賀会となりました。たくさん信徒が一品料理を持ち寄り、司教様を囲んでのお話と、マイケル神父様のギターに合わせて皆で歌い、とても楽しい時間を過ごすことができました。

コロナ禍を経験した私たちは、みなで一緒に料理をいただくことは当たり前でないことを知り、そのありがたさを身に染みて感じました。今回、ごミサにたくさん信徒が集い、喜びとともにする中で、主任司祭マイケル神父様とわたしたち信徒が一層絆を深め、イエス様を伝えていく思いを新たにし、力強く歩



るよう、共同体としてできることをみなで考え、祈り、行動していきたいと思いました。

(渡慶次純栄通信員)

二〇二三年度 那覇・鹿児島・大分三教区合同黙想会

去る六月十九日から二十三日の日程で安里教会を主会場に、三教区合同黙想会が開催された。コロナ禍で中止を余儀なくされてきたが、久しぶりの合同黙



想会には三教区の司教他、司祭、助祭合わせて約五十人が参加。黙想指導のため、仙台教区のエドガル・ガクダン司教が「すべての人を一つにしてください」(ヨハネ十二・21)をテーマに講話を担当された。

黙想会は二十二日の午後六時で閉会し、6・23の那覇教区「平和巡礼」へも。時間の許す司祭たちは、小祿での朝ミサを共同司式し、魂魄の塔までの巡礼にも足を運ばれた。



お知らせ

開南教会旧聖堂が老朽化のため、7月半ばに解体されることになりました。沖縄の宣教の歴史の中で大きな役割を果たしてきました。残念ではありますが、今後は駐車場として活用されます。お祈りください。

開南教会主任 古川 政孝

那覇教区平和委員会

日時

7月23日(日)14:00~16:00

場所

安里教会

講師

仲村 未央 (県会議員)

演題

沖縄をふたたび戦場にしない

カトリック那覇教区平和委員会

問い合わせ

☎090-1949-6569 (稲福)

7月例会

那覇教区 カテキスタ養成講座の 開講予定の日の変更について

諸般の事情により、当初2023年5月28日に予定しておりました同講座の開講日は、7月15日(土)に順延いたします。なお、まだ参加希望者のいない小教区もあるため再度主任司祭を通じて受講者を募ります。参加希望者のまだ出ていない小教区は主任司祭の推薦によってご応募ください。各小教区少なくとも1名の参加をお願い致します。

那覇教区カテキスタ養成委員会

委員長 ピーター・チェ神父



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬4-22-13-103

・基本受付 月曜日~金曜日
(申込、相談など)

・営業時間 8:30~17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



第54回 (2023年) サマーキャンプのお知らせ

・日 時:

小学3年生～6年生……………7月29日(土)
午前9:30～午後5:00

Elementary, grades 3～6…July 29 (Sat)
9:30AM～5:00PM

中学・高校生……………8月5日(土)
午前9:30～午後5:00

Junior/Senior High ……August 5 (Sat)
9:30AM～5:00PM



・テーマ: とともに歩む ～自分の周りのすべてのものとうどう関わるか～ Walk Together

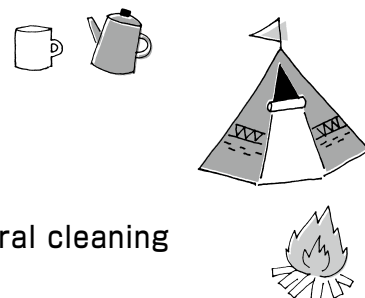
・活動内容: ワーク、分かち合い、水泳、バーベキュー、御ミサなど
Lecture, sharing, swimming, BBQ, Mass etc...

・参加費: 無料 Participating Fee: free of charge

・場 所: 那覇教区ミッションビーチ(恩納村) (Mission Beach)

・参加申込期限: 7月9日(日) July 9 (deadline of submission)

・7月23日(日): 大掃除 13時から～(現地集合をお願いします) general cleaning



※参加申込書に必要事項を記入の上、所属教会主任司祭にご提出ください。

※当日朝、体温測定を行っていただき、体調に不安がある方は、参加を御遠慮くださいますようお願いいたします。

※黙想の家までの送迎については各小教区単位で対応することになりました。主任司祭にご連絡ください。

今年もサマーキャンプを迎える時節となりました。今年のサマーキャンプ担当は、泡瀬カトリック教会のブイ神父です。昨年同様、今年も感染予防対策をとった上で宿泊はせず、上記の日程で、日帰りで実施することに致しました。子供達が普段会うことのできない他教会の仲間達と出会い、活動する中で絆を深め、喜びの中で神様について学ぶ良い機会です。大勢の子供達の参加で、有益な体験となることでしょう。ふるってご参加ください。サマーキャンプに参加する子供達の安全と指導、助けとなるヘルパーの皆様の御協力を必要としています。経験・未経験に関わらずご応募いただき、実り多いサマーキャンプとなりますよう、御協力宜しくお願い致します。



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向
を最優先に考えます。何でもご
相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail: yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
お手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059

